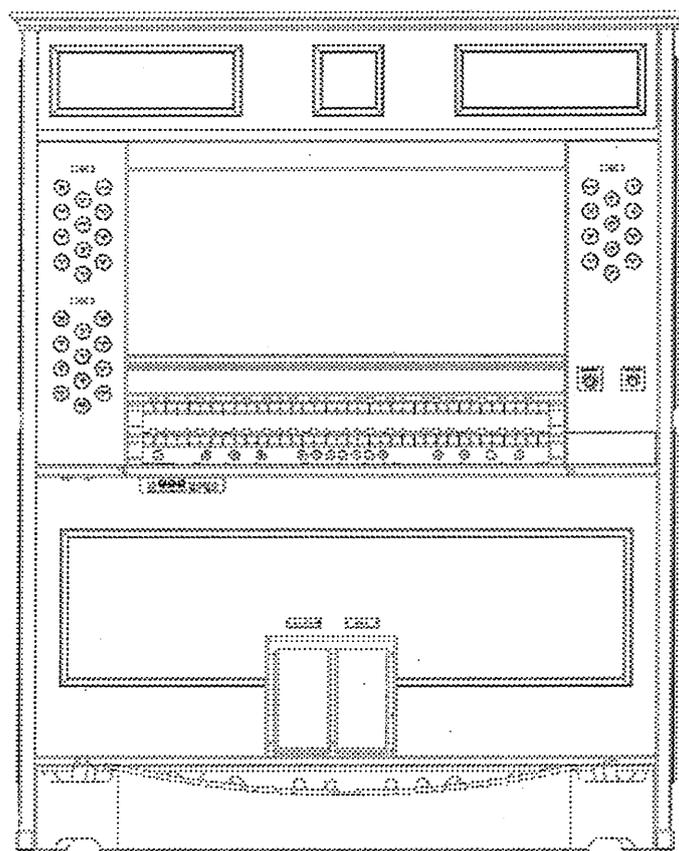


# viscount

## Canticus 50



---

IT - Guida Rapida  
EN - Quick Guide  
DE - Kurzanleitung  
FR - Guide Rapide

---

Ver. EU - 1.0

## バイカウント クラシックオルガン について

現代のクラシックオルガンは、コンピュータで制御しております。

電源を入れてから、初期設定が完了するまでに、機種によって違いますが、約10秒かかります。

「カチッ」という音がするまでは、メモリーボタンや、ストップ等には触れないで下さい。

誤動作を起こすことがあります。



もし、誤動作が発生したときは、一度、電源を切り、再度、電源を入れなおしてください。(再起動)



再起動しても、不具合があるときは、リセット(ファクトリーセッティング)をかけてください。

工場出荷時と同じ状態に戻ります。ファクトリーセッティングをかけると、メモリー内容も消えて

しまいますので、必ず別途筆記をお願いします。



### リセット方法

コントロールセンター(引き出し)の、カーソル上▲と、下▼を押さえた状態で電源を入れます。

リセットが終了するまでに約10秒かかります。必ず、「カチッ」という音を確認してから、ご使用ください。

その他、取扱説明書に大事なことが書いてありますので、参照してください。

## 自動演奏装置付 オルガンの フロッピーディスク について

フロッピーディスクは薄い磁気シートです。高温、多湿、磁気、ホコリ等は避けて保管してください。

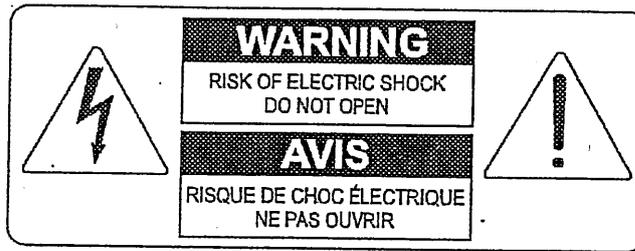
録音、再生中に電源を切ったり、イジェクトボタンを押すと、データが消滅することがあります。

必ず、ストップボタンを押してから、次の動作に入ってください。

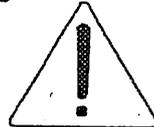
フロッピーディスクのデータは、パソコンや、別のフロッピーへの保存をお願いいたします。

# IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

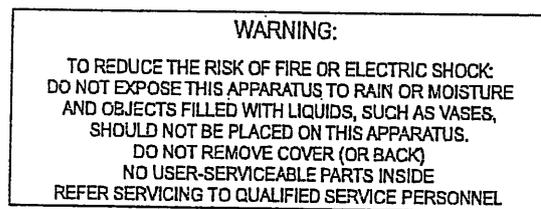
WARNING: READ THIS FIRST!



This symbol is intended to alert the user to the presence of uninsulated "dangerous voltage" within the product's enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.



This symbol is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.



## "INSTRUCTIONS PERTAINING TO A RISK OF FIRE, ELECTRIC SHOCK, OR INJURY TO PERSONS"

### 警 告

- 1) この取扱説明書をよくお読み下さい。
- 2) この取扱説明書を保管して下さい。
- 3) すべての警告にご注意下さい。
- 4) すべての指示に従って下さい。
- 5) この楽器を水まわりで使用しないで下さい。
- 6) 楽器を拭くときは、乾いた布をご使用下さい。
- 7) 楽器の開口部を塞がないで下さい。メーカーの指定する場所に設置して下さい。
- 8) 熱源の近くに設置しないで下さい。
- 9) 安全のため、極性のあるプラグ、またはアース付のプラグを使用して下さい。
- 10) 電源コードを踏んだり、はさんだりしないで下さい。
- 11) メーカーの付属品をご使用下さい。
- 12) メーカー専用のカート、スタンド、三脚、ブラケットをご使用下さい。  
カートを使用する場合は、転倒防止にご注意下さい。
- 13) 雷の場合や、長く使用しない場合はプラグを抜いて下さい。
- 14) 修理は資格のあるサービスマンにご相談下さい。電源コードやプラグが壊れた場合、液体がこぼれたり、ものが落ちた場合、雨や湿気にさらされた場合、通常に操作できない場合、落とした場合。



## 目次

1.重要な注意点 .....	2
1.1楽器のケア .....	2
1.2フロッピー・ディスクの注意点 .....	2
2.コントロールと接続 .....	3
2.1サイドパネル .....	3
2.2サムピストンのコントロール .....	5
2.3 足鍵盤のコントロール .....	6
2.4鍵盤棚下の接続端子 .....	7
2.5リアパネルの接続端子 .....	8
3.セントラル・コントロール・ユニット .....	10
4.オルガン ジェネラル セットアップ .....	13
4.1トレミュラントの設定 .....	13
4.2トリバンプの型を選ぶ .....	13
4.3手鍵盤のジェネラルセットアップ .....	14
5.レコーディングとプレイバック .....	15
5.1演奏した曲を録音する .....	15
5.2レコーディングした曲をプレイバックする .....	16
6.ボイスのローカル・オフ .....	17
7.ファクトリー・セットアップ .....	17

## 1. 重要な注意点

### 1.1 楽器のケア

- ・オルガン本体やコントロール部(ノブ、ストップ、ボタン等)に無理な力を加えないで下さい。
- ・ラジオ、テレビ、コンピューター、ビデオ等 強いノイズを出す機器の近くに、オルガンを設置しないで下さい。
- ・熱源の近く、湿気の多い場所、ほこりっぽい場所、また磁気の強い所にオルガンを設置しないで下さい。
- ・楽器を直射日光にさらさないで下さい。
- ・楽器内部に異物を入れたり、液体をこぼしたりしないで下さい。
- ・掃除をする場合は、柔らかいブラシか、エアを使用して下さい。洗剤、溶剤、アルコールは決して使わないで下さい。
- ・スピーカーへの接続にはシールドケーブルを使用して下さい。ケーブルをはずすときは、必ずコネクター部分を持って下さい。またケーブルを巻くときは、結んだり、ねじったりしないで下さい。
- ・スピーカーへの接続を確認してから、スイッチをONにして下さい。雑音や危険なピーク信号を避けることができます。
- ・長期間オルガンを使用しない場合は、電源ソケットからプラグを抜いて下さい。

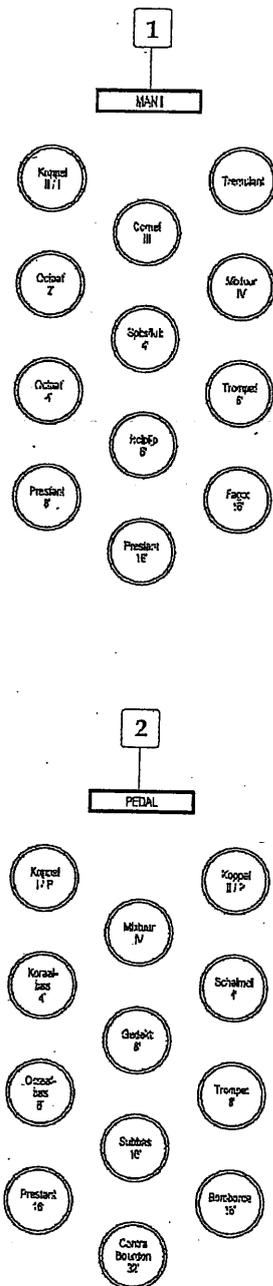
### 1.2 フロッピーディスクの注意点

- ・品質の良いフロッピーディスクをご使用下さい。
- ・フロッピーディスクドライブのLEDが点灯中はフロッピーディスクを取り出さないで下さい。ヘッドをいため、磁気データを破壊する恐れがあります。
- ・MS-DOSスタンダードにフォーマットした3.5"フロッピーディスク(720Kb または1.44Mb)をご使用下さい。
- ・フロッピーディスクを熱源、磁気を発するもの(コンピューター、ビデオ、スピーカー等)の近くや、湿気のある場所、ほこりっぽい場所に保管しないで下さい。
- ・壊れたフロッピーディスクを使用して、フロッピーディスクドライブが損傷を受けた場合は、メーカーは責任を負いません。

## 2.コントロールと接続

### 2.1 サイトパネル

左パネル



1.[Man.I] のドローストップ: Man.Iのドローストップと、トレモロ、カプラーもあります。

○ [II/I]: Man.IIのボイスをMan.Iで演奏できます。

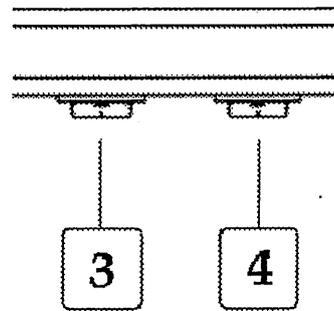
2.[PEDAL] のドローストップ: ここには足鍵盤のボイスとカプラーがあります。

○ [I/P]: Man.Iのボイスを足鍵盤で演奏できます。

○ [II/P]: Man.IIのボイスを足鍵盤で演奏できます。

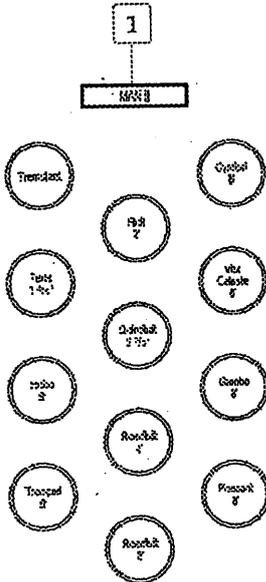
3.[POWER] スイッチ: オルガンのメイン電源スイッチです。

4.[EXT. SPK] スイッチ: 外部スピーカーをオン・オフする  
[EXT + 12VDC]用のスイッチです。



### 右パネル

1.[Man.II] のトローストップ: Man.IIと、トレモロのトローストップです。



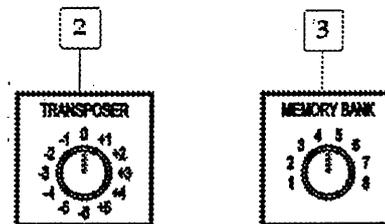
2.[TRANSDOSER] セクター: +5~-6半音の範囲で  
チューニングを変えられます。

3.[MEMORY BANK] セクター: 8つのメモリーバンクには  
ジェネラルメモリーと専用メモリーを保存できます。

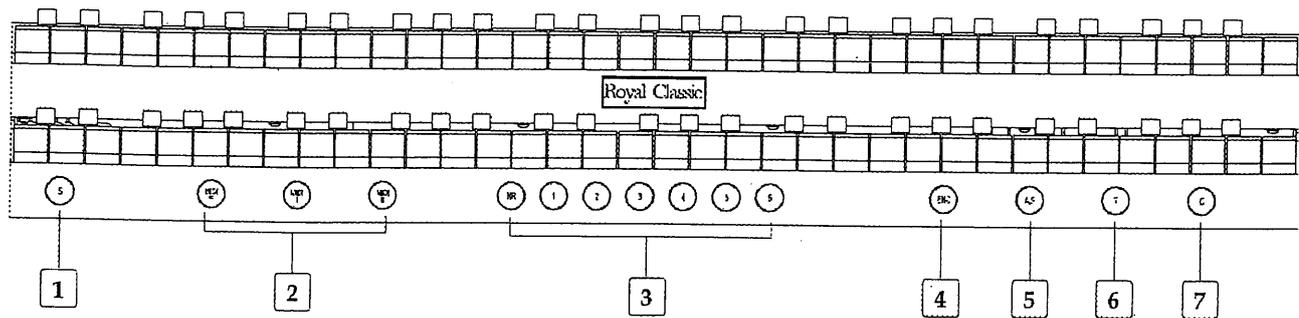
トータル:ジェネラル・メモリー48。

この機能は複数のオルガニストが1台のオルガンを  
使用する場合に 便利です。

各オルガニストがそれぞれのレジストレーションを  
メモリーできます。



## 2.2 手鍵盤部のサム・ピストンのコントロール



- 1.[S]ボタン: メモリー保存用のセットボタンです。メモリーを保存するには、まずSボタンを押し、押したまま保存するメモリーボタンを押します。
2. MIDI TO 部: ここには各手鍵盤と足鍵盤のチャンネルから、MIDIノートの送信をアクティブにするボタンがあります。関連するMIDIチャンネルが有効なときは、これらのボタンが点灯します。
- 3.メモリー: ここにはオルガンのジェネラル・メモリーがあります。  
メモリーにはHRというボタンがあります。これはメモリーを作動させる前のレジストレーションにもどす機能を持っています。

メモリーに保存できるのは次のものです。

- ボイス
- カプラー
- トレミュラント(スピード及び深さ含む)
- MIDI TOコントロール、プログラム・チェンジ、

ジェネラル・メモリーには、次の機能も保存できます。

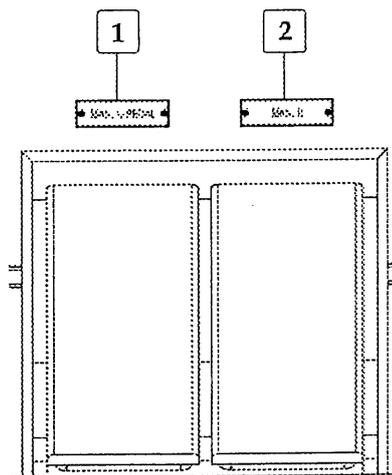
- オルガン・ソロ
- エンクロースト、オートマティックペダル

- 4.[ENC]ボタン: このボタンを押すと、Man.IIのペダルでオルガン全体のボリュームをコントロールできます。
- 5.[A.P.]ボタン: このボタンを押すと、Man.Iの最低音32音で、足鍵盤のボイスを演奏できます。このとき、音は低音を優先して、単音となります。また足鍵盤からは音が出なくなります。
- 6.[T]ボタン: このボタンを押すと、トゥッティになります。  
トゥッティは変更できます。ボイスとカプラーを選び、Sを押しながらTを押してください。
- 7.[C]ボタン: これはキャンセルボタンで、ボイスやカプラーをキャンセルし、[HR]ポジションに戻します。

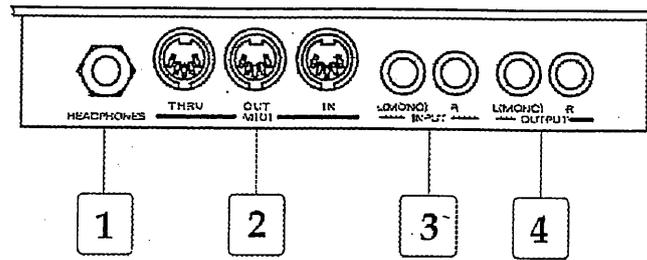
## 2.3 足鍵盤のコントロール

1.[Man.I/PEDAL]ペダル: このペダルでMan.Iと足鍵盤のホリウム・コントロールができます。

5.[Man.II]ペダル: このペダルでMan.IIのホリウム・コントロールができます。



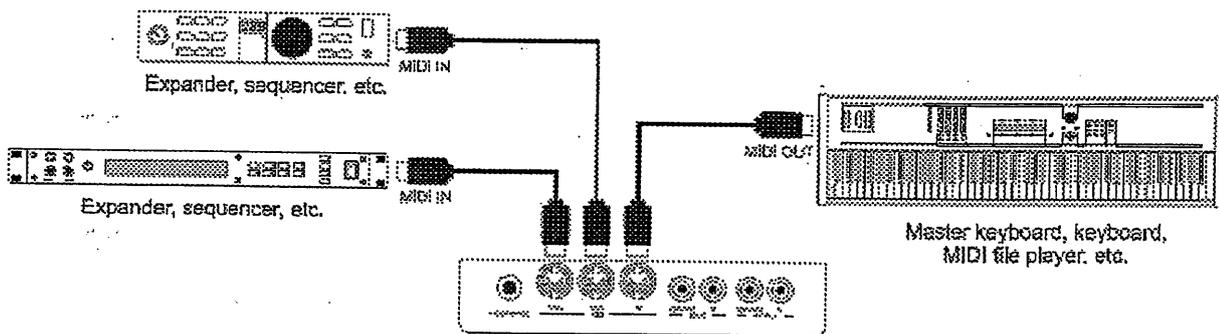
## 2.4 鍵盤棚下の接続端子



- 1.ヘッドフォンソケット: ヘッドフォンの接続端子です。(フォン・ジャック) ヘッドフォンをつなぐと、オルガンの音が出なくなります。

注意: ヘッドフォンの音を最適にするために、16Ωのヘッドフォンを推奨します。

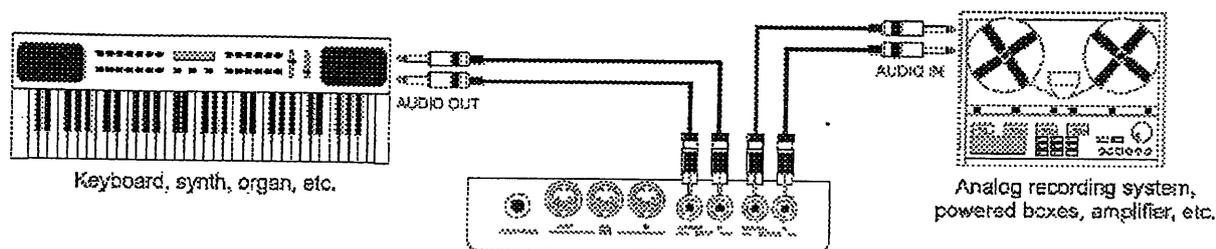
- 2.MIDIソケット: MIDIインターフェースを持つ楽器の接続に使用する、5ピンのDINプラグ用のソケットです。INは他のMIDIソースから送られた信号を受け、OUTはプレスティージュ80から発信した信号を送り出し、THRUはINに受けた信号を正確に送り出すための端子です。



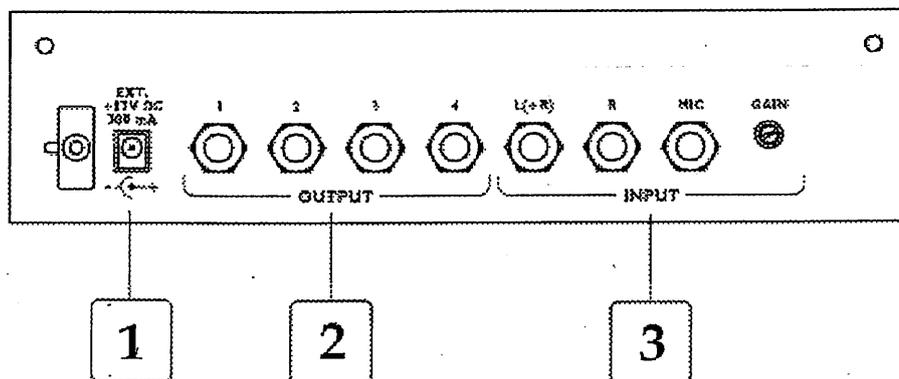
- 3.インプットソケット: 他の楽器で演奏したものを、オルガンのアンプで音を出すための端子です。この端子はピン・ジャックです。音源がモノの場合はL(MONO)へつないでください。

4.アウトプット ソケット: アンプを通さない信号を送り出す端子で、アンプ付スピーカーや録音システムへ接続するためのものです。

信号がモノの場合はL(MONO)へつないでください。



## 2.5 リア・パネルの接続



1.[EXT.+12VDC]: [OUTPUT] へ接続したスピーカーにDC12Vを送るための端子です。

外部スピーカー(V28等)は、左サイドパネルの下にある[EXT. SPK] スイッチでオン・オフできます。

2.[OUTPUT] 部: ここには外部スピーカーを接続する4個のライン・アウトがあります。

コントロール・ユニットを使うと、オーディオ・アウトのパラメーターを変更することができます。(ボリューム、デレー、イコライザー等) このようにして、実際のオルガンのウインド・チェストの音響にちかずけることができます。

これらの機能はEXTERNAL OUTPUTS CONTROL や EXTERNAL VOICES ROUTERと呼ばれます。詳細はアドバンス・マニュアルをご参照ください。

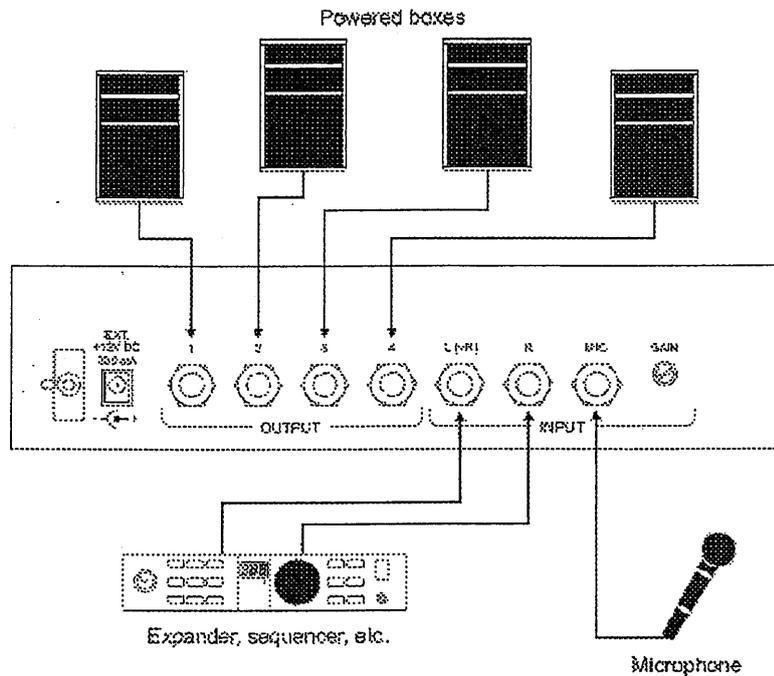
**警告！**

実際のパイプの音響に似せるためには、スピーカーをアウトプット・ナンバーに従って配置する必要があります。アウトプット1のスピーカーは一番左端に置き、順に配置します。つまり一番右側にはアウトプット4のスピーカーがくることになります。  
セントラル・コントロール・ユニットにある、手鍵盤と足鍵盤のボリュームコントロールとエクスプレッションペダルはリアパネルと鍵盤棚下にある[OUTPUT]にも有効です。  
これらの[OUTPUT]に影響しないのは、ジェネラルボリュームのつまみだけです。

3.[INPUT] 部: ここには外部機器のアウトプット信号を受けて、オルガンのアンプで音を出すためのインプット端子があります。接続は次に通りです。

- [L+(R)], [R] : ステレオのインプット端子です。モノの場合は[L+(R)]だけを使ってください。
- [MIC] : マイクの接続端子です。
- [GAIN] : MICインプットに接続された信号を調整するトリマーです。

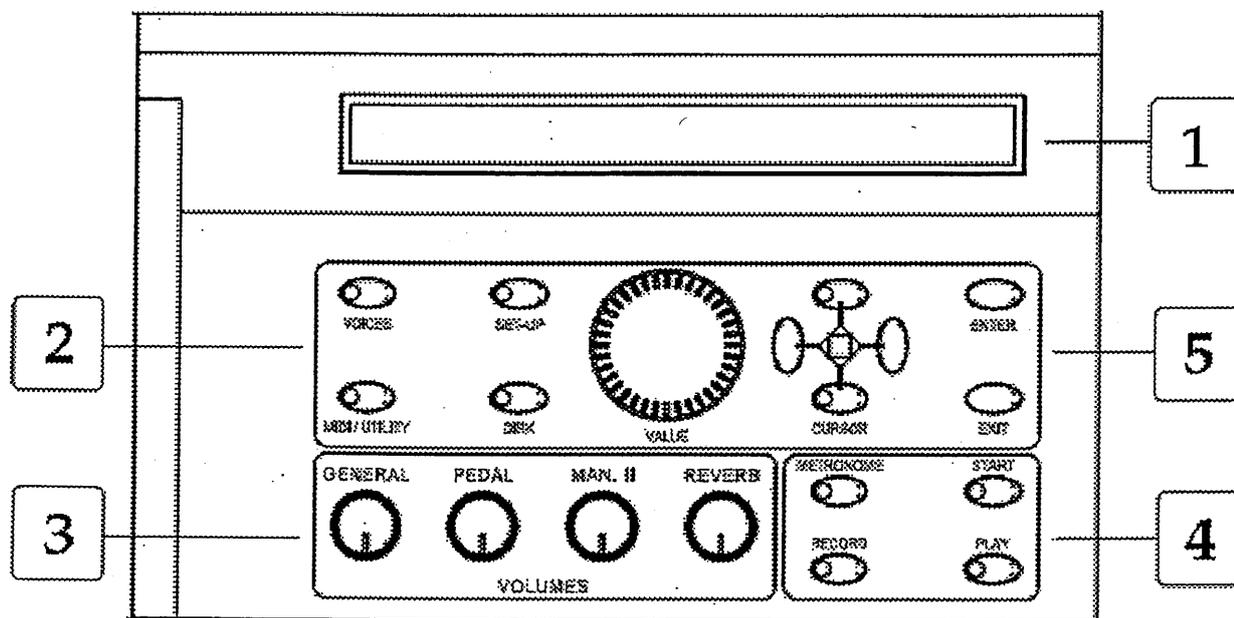
**リア・パネルのアウトプット接続例**



### 3. セントラル コントロール ユニット

鍵盤棚下のひき出しの中に、セントラル・コントロール・ユニットがあります。

このクイックガイドでは、基本的な部分の記述をします。詳細な機能やパラメーターについてはアドバンスマニュアルをご参照下さい。



1.ディスプレイ: 2行40文字のディスプレイにオルガンの諸機能に関する画面を表示します。

2.メニュー選択ボタン: これら4個のボタンでメインメニューを選びます。

- [VOICES]: オルガン・ボイスに関するボタンです。
- [SET-UP]: オルガンの全体設定を行うボタンです。
- [MIDI & UTILITY]: MIDIインターフェースの設定と、リアパネルの接続を設定します。
- [DISK]: フロッピー・ディスクとそこに保存されたファイルに関する機能です。

3.VOLUMES部: オルガン各部の音量を調整するものです。

- [PEDAL]: 足鍵盤のボリュームコントロール。
- [MAN.II]: 第2手鍵盤のボリューム・コントロール。
- [REVERB]: リバートエフェクトのレベル調整。
- [GENERAL]: オルガンの全体ボリュームレベル調整。

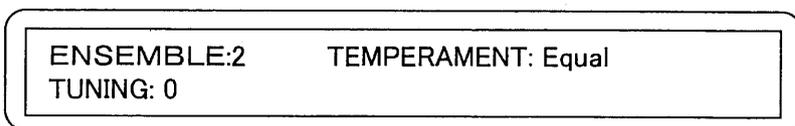
4.シーケンサー: ここにはマルチトラック・シーケンサーの操作ボタンがあります。

- [PLAY]: レコーディングしたMIDIシーケンスのプレイバックに使用します。
- [RECORD]: レコーディングのスタートに使用します。
- [METRONOME]: このボタンを短く押すとメトロノームが起動します。  
長押しすると、メトロノームのセッティングページが出ます。
- [START-STOP]: MIDIシーケンスのレコーディングやプレイバックのスタート/ストップに使用します。

5.ディスプレイ・ファンクションコントロールボタン: これらのボタンで、カーソル移動、数値設定、ページの選択、コンピューターメッセージの確認や拒否を行います。

- [VALUE]: パラメーターの設定に使うエンコーダー。
- カーソル: 画面のページの中でのカーソル移動に使用します。  
▲、▼にはLEDが付いていて、点灯時は、次ページ、前ページに関連する説明がある事を示しています。ボタンを押して、要求されたページを見て下さい。
- [ENTER]: 機能の内容を表示したり、ディスプレイ上のメッセージの確認に使用します。
- [EXIT]: 現在のページから出たり、ディスプレイ上のメッセージの拒否に使用します。

楽器の電源をオンにすると、ディスプレイは次のようになります。



ここには下記のパラメーターがあります。

- ENSEMBLE: 経年変化による、各パイプ間の整音の微妙な狂いを、8つのレベルでシミュレートできます。数値は- (完全に調律されている) から8 (整音の最大の狂い)迄になっています。

## 4.オルガン ジェネラル セッティング

中央パネルの[SET-UP] ボタンを押すと、オルガンのジェネラル・セッティングができます。画面は次のようになります。

[TREMULANT] [REVERB] [KEYBOARDS SETTING]  
[INT.EQUALIZER]

- TREMULANT: 各鍵盤のトレミュラントの設定を行う機能です。
- REVERB : リバースの種類を選べます。
- KEYBOARDS SETTING : 手鍵盤と足鍵盤のパラメーターの調整を行う機能です。
- INTERNAL EQUALIZER : オルガン内蔵のイコライザーの調整機能です。

### 注意:

INTERNAL EQUALIZER, ANTIPHONAL OUT, AFC CALIBRATIONはアドバンスト・マニュアルに説明があります。

各機能を変更する場合は、関連するフィールドにカーソルをあて、[ENTER]を押します。メインメニューへ戻るには、[EXIT] か[SET-UP] を押します。

### 4.1トレミュラントの設定

各手鍵盤のトレミュラントの深さとスピードの設定ができます。

[SET-UP] メニューからトレミュラントのフィールドを選ぶと、ディスプレイは下記のようになります。

TREMULANT:	Manual I	Manual II
Depth/Speed	16/16	16/16

各手鍵盤のトレミュラントの深さとスピードが下段に表示されます。

／の左側が深さ、右側がスピードの表示です。それらの数値を変えるには、カーソルをその数値にあて、エンコーダーを回します。

必要な変更が終わったら、[ESC]キーを押してSET-UPメニューに戻り、新しい設定を保存します。

### 4.2リバースの型を選ぶ

ここではリバースの8つのタイプを選ぶ事ができます。これらのリバースはいろいろな環境に置かれたオルガンの響をシミュレートするものです。

中央パネルの[REVERB] ボタンでリバーブの種類を選択できます。

○ TEMPERAMENT: ここではいろいろな時代と国々の歴史的テンペラメントを選ぶことができます。MEANTONE, CHAUMONT, WERCKMEISTER, KIRNBERGER, PYTHAGOREAN, VALLOTTI, KELLNER が入っています。

MEANTONE: 8個の純粋な長3度(Eb-G/Bb-D/F-A/C-E/G-B/D-F#/A-C#/E-G#)  
使用できない長3度(減4度) (B-D#/F#-A#/C#-E#/Ab-C)  
ウルフの5度: G#-Eb、不規則な半音階。  
ミートーンで使用できる調: C,D,G,A,Bb とそれぞれの平行短調。

以下はすべての調を使えるように工夫したのですが、それぞれの響に特徴があります。

WERCKMEISTER: オルガニスト、楽理学者のアントレアス・ウェルクマイスターの考案になるもので、1600年代後半のドイツ音楽に向きます。

KELLNER : Herbert Anton Kellner. 1938年プラハ生まれ。ウィーン大学で物理学、数学、天文学を学ぶ。ハッハの「平均率クラヴィア曲集」の研究により、新しいテンペラメントを確立。18Cのドイツ音楽、特にハッハに向く。

CHAUMONT: 6つの純正な長3度からできています。D-F#/E-G#/F-A/G-B/A-C#/C-E(これはややせまい)。  
17C終りから18世紀初頭のフランス音楽に使われます。

PYTHAGOREAN: 純正5度を保持したもので、中世から15世紀の音楽に向きます。

VALLOTTI: Vallottiのテンペラメントは後にイギリスのトマス・ヤングに採用されました。  
18世紀のイタリア音楽と、イギリス音楽に向きます。

KELLNER: ヘルバルト・アントン・ケルナー。1938年プラハ生まれ。ハッハの平均律クラヴィア曲集の研究により、1975年に独自のテンペラメントを考案。18世紀のドイツ音楽、特にハッハの音楽に向きます。

## 5.レコーディングとプレイバック

カンテックス50は録音、フロッピーディスクへの保存、プレイバック機能を持ったシーケンサーを内蔵しています。ここでは録音機能の基本的なことを説明します。詳細はアドバンスド・マニュアルをご覧ください。

### 5.1 演奏した曲を録音する。

レコーディング・モードに入るには、まずフロッピーディスクを差し込んでから、[RECORD] ボタンを押します。ディスクの読み込みが始まると、下記の表示になります。

```
*** Reading disk contents ***
Please wait
```

表示は次のように変わります。

```
RECORD:NEWSONG Tempo:120 Meas: 1
Ped:REC Man.I:REC Man.II: REC Common: REC
```

次に、ボイスと他のコントロールをONにして、[START-STOP]を押します。シーケンサーがスタートします。(予備小節(3小節目で弾き始めるとか)を外ロームで設定できます。)[START-STOP] ボタンのLEDが設定したテンポと拍子にあわせて点滅します。

レコーディングを終了するには、もう一度[START-STOP] ボタンを押します。画面にはレコーディングしたシーケンス(曲)をセーブする表示が出ます。またそこに表示されたMIDファイル名がフロッピーに書き込まれます。

```
SEQUENCER SAVE:
SONG: SESSION 1.MID - Press ENTER to start
```

カーソルボタンでカーソルを移動し、エンコーダーで文字を選びます。[ENTER]を押せばレコーディングされた曲が保存され、[EXIT]を押せば保存の操作を解除します。さらに[EXIT]を押せば、メインページへ戻ります。

#### 注意:

すでに保存してある曲を消さないために、すでに保存してある曲と同じ名前を入力しないように注意して下さい。同じ名前をセーブすると、もとのものが上書きされます。

リバーブタイプを選ぶには、[SET-UP] メニューからREVERBフィールドに入り、ENTERを押します。ディスプレイの表示は次のようになります。

REVERBERATION: type: Cathedral

エンコーダーを回してお好みのリバーブタイプを選び、ENTERを押します。変更を保存したり、[SET-UP] メニューに戻るときは、[ESC]キーを押して下さい。

注意:  
オルガン内蔵のリバーブは、オーケストラ・ボイスにも有効です。また、リア・パネルの[INPUT]端子から入る信号にも有効です。

#### 4.3 手鍵盤のジェネラルセッティング

鍵盤の設定機能には手鍵盤と足鍵盤の2つのメイン・パラメーターがあります。[SET-UP] メニューからKEYBOARD SETTING のフィールドに入ると、最初の画面はRANKS DISTANCE (アドバンスドマニュアルに詳述)です。

そこでカーソルボタン ▼ を押すと、KEYBOARDSINVERSION のパラメーターに入ります。

KEYBOARDS INVERSION: disable

KEYBOARD INVERSION の機能を使うと、MAN.IとMAN.IIが入れ変わります。

設定のしかたは下記の通りです。カーソルをディスプレイの最初にあて、エンコーダーを回すと、enable と disableを変更することができます。

さらにカーソルボタン ▼ を押すと、最後の鍵盤設定である、ENCLOSEDと AUTOMATIC PEDAL、また、トレモラントの深さとスピードの設定へ進みます。

ENCLOSED, AUTOMATICPEDAL AND TREMULANT  
DEPTH AND SPEED STORED IN MEMORIES: NO

エンコーダーでYESを選ぶと、それらをメモリーできます。止める場合はNOを選びます。

注意:  
エンクロースドとオートマチック・ペダルをアクティブにした場合、キャンセルボタン [C]を押しても、これらは

必要な変更が終わったら、[ESC]キーを押してSET-UPメニューに戻り、新しい設定を保存します。

## 5.2 レコーディングした曲をプレイバックする。

レコーディングした曲をプレイバックするには、フロッピーを差しこみ、[PLAY]を押します。  
フロッピーの読み込みが始まります。

\*\*\* Reading disk contents \*\*\*  
Please wait

ディスクに保存されているすべてのトラック(.MID ファイル)が表示されます。

ERICSONG.MID SESSION1.MID RECORD\_1.MID  
RECORD\_2.MID RECORD\_3.MID

カーソルキーでプレイバックしたい曲を選び、[ENTER]を押します。  
画面は次のようになります。

PLAY: SESSION 1 Tempo:120 Meas: 1  
Ped:— M. I:PLY M. II:PLY CM:PLY

[START-STOP] ボタンを押すと、プレイバックが始まります。  
プレイバック中にボイスを変えたり、シーケンサーと一緒に演奏することも可能です。  
プレイバック中に[PLAY]を押すとポーズがかかります。

PLAY: SESSION 1 Tempo:120 Meas: 1  
PD:PSE M. I:PSE M. II:PSE M. III:PSE CM:PSE

もういちど[PLAY]を押すとポーズが解除されます。  
[EXIT]か[PLAY]を押せばメインメニューへもどります。

## 6.ボイス ローカル・オフ

オルガンからは音を出さずに、接続した楽器にMIDI信号を送って(System Exclusive)音を出す使い方をローカル・オフといいます。

ローカル・オフにするには、[S]ボタンと[C]ボタンを同時に押します。すべてのストップがオンになり、画面は次のようになります。

LOCAL ON/OFF STOPS SETTING  
\*\*\*\*\*

ローカルオフモードにするには、ローカルオフにしたいストップを押してそのストップのランプを消します。設定が終わったら、もういちど[S]ボタンと[C]ボタンを同時に押して、設定を保存します。

ランプ点灯: ローカルオンモード

ランプ消灯: ローカルオフモード

通常の操作で、ローカルオフがアクティブになっている場合、ストップが2回点滅してから点灯します。

## 7.ファクトリーセッティング

ファクトリーセッティングを行うと、ユーザーが行った変更がキャンセルされ、すべての設定が工場出荷時の状態にもどります。カーソル▲と▼を同時に押したまま、電源をオンにします。下記の画面が現れます。

Factory Setting in Progress

ファクトリーセッティングが終ると、画面にメインページが表示され、オルガンが使えるようになります。

### FCC RULES

**NOTE:** This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital Device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that the interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced Radio/TV technician for help.

The user is cautioned that any changes or modification not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

F

viscount

**Viscount International S.p.A.**

Via Borgo n.° 68/70 – 47836 Mondaino (RN), ITALY

*From Italy: TEL: 0541-981700 FAX: 0541-981052*

*From all other countries: TEL: +39-0541-981700 FAX: +39-0541-981052*

*E-MAIL: [organs@viscount.it](mailto:organs@viscount.it)*

*WEB: <http://www.viscount-organs.com>*

*<http://www.viscount.it>*